

段審査会・立会担当者の手順と心得

神奈川県剣道連盟

平成 22 年 5 月

平成 23 年 7 月

平成 28 年 11 月

平成 29 年 11 月

(一部改正)

*立会の担当者は昇段審査会を、安全・公平・順調に進行させる重要な任務です。

*受審者に対し剣道界の先輩として、分かりやすく・親切・丁寧な対応をして下さい。

*服装は審判員の服装、またはスーツとします。(夏場の審査では、上着無しで可)

《 実技審査 》

- 1、ストップウォッチをセットします。
(使い方は、説明書があります。セット時間は、開始前に責任者から指示があります)
- 2、審査開始前に、受審者を番号順に整列させます。会場が狭い場合や人数が多い場合は、審査を進めながら整列させます。
- 3、審査時は左手にストップウォッチを持ち、端正な姿で立ち、発声は明瞭にします。
- 4、直立して「始め」、右手を高く上げて「止め」、右手を前に出して「それまで」と宣告をします。
- 5、相互の礼をした後、(特に初段では)前に進み出ない人が出てきます。「前に出て蹲踞して下さい」と、大きな声で促します。《重要な任務です》
- 6、開始線から離れたりしていても、試合と違い直す必要はありません。それも審査対象です。(但し、危険性があり、または不公平な状態の時には修正させます。)
- 7、着装と竹刀に危険な要素が無いか、素早く点検します。
- 8、途中で転倒・竹刀操作不能等で中断時間があつたときは、その所要時間は、自分の裁量でそれに見合った時間を延長して「止め」をかけます。
- 9、2人が審査員から遠く離れてしまった場合には、近づいて大きな声と手の合図で「審査員の前でやりなさい」と指示し、むやみに中断しないようにします。
(但し、隣の会場の審査の障害になるときや、危険がある場合には、即中断して元の位置に戻します。)

- 10、二刀を使う人と対戦する受審者には、全剣連の審査と同様、その人と対戦した2人をもう一度対戦させ（3人目の対戦をすることになります）、均等な機会を2回与えて、公平な審査を図るようにします。（審査主任に報告、承認をいただいでください。）

<例> 1・②・3・4・5 で②が二刀の受審者の場合

1・②、②・3、3・4、4・5、5・1と対戦した後、1・3の対戦をさせます。

《 学科審査 》

- 1、実技合格者に、予め書いてきた学科審査の「答案」を持たせ、審査員の前に審査員の人数の列で合格番号順に並ばせます。全員が氏名・受審者番号を記入しているか確認させて、審査員に答案を提出させます。

《 形審査 》

- 1、3組6名で行う事を原則とし、**十分な間隔（特に横の間隔）で危険がないか確認**します。
最後が1組になる場合は、最後の2グループを2組4名で行わせます。
- 2、組み合わせが決まったら、打太刀は右側の大ダレに、仕太刀は左側の大ダレに受審番号のシールを張り替えさせます。**
- 3、木刀を反対や逆さまに持っている人に、注意をして直す必要はありません。
（それも審査対象項目です）
- 4、最初の組が定位置についたら「日本剣道形〇本を行います」と発声します。
（この発声は、二組目からは省略）
- 5、右手を上げて「こちら、打太刀」、左手を上げて「こちら、仕太刀」と、**取り違いが無いよう、ゆっくりと明瞭に発声**、続いて「始め」で開始させます。
- ~~終わりの礼が終了したら、「正面を向いてください」と促して審査員と正対させ、審査主任から合図があったら「退場」と発声します。（審査員への礼は不要です）~~
- 6、続いて「次の組、入場」と発声します。
- 7、1名が残る場合は、先に終了した受審者から1名を選び、相手をお願いしてもらいます。（お願いした人の垂は、外してもらいます）